

第3回幹事会報告

庶務幹事 坂井信彦、菅 滋正

日 時：平成6年7月29日(金) 午後3時10分－4時30分

場 所：先端科学技術支援センター 電子会議室

出席者：菊田、松井、坂田、下村、難波、辻、塩谷、村田、前田、菅、坂井、
鈴木(財団)、稲垣(事務局)

内 容：

現状報告が会長および各幹事よりなされた。報告内容は翌日開かれた第2回運営委員会での報告と大半が重複する。詳細は次頁「第2回運営委員会報告」を参照していただくこととし、ここには項目のみ記録する。

1. 会長報告

(1)利用者懇談会組織の充実について。

- ・新顧問の依頼(木原元央氏[KEK-PF施設長]、田井晰氏[姫工大・理学部長])。
- ・新利用幹事(石黒英治氏[大阪市立大・工])の指名。
- ・現会員数は858名となった。
- ・研究課題サブグループ数は33グループで変わらない。

(2)利用者懇談会の平成6年度の活動目標・活動状況について。

- ・原研理研共同チーム、高輝度光科学研究センターとの交流。
- ・SPring-8の利用体制・運営体制への利用者の立場からの行政レベル(科技庁・文部省)への提案。
- ・ビームライン計画への対応。
- ・ビームライン、実験ステーション建設へのサブグループの協力。
- ・サブグループ組織の強化。
- ・「放射光科学合同シンポジウム」[平成7年1月10－13日]への参加。
- ・講習会の開催報告[平成6年6月10日]。
- ・シンポジウムの開催予告[平成6年10－12月]
- ・広報誌「光彩」の発行。
- ・入会の勧誘。

2. 幹事報告

<庶務>

- ①事務局に電話と別のFAX回線を設けた。FAX番号は078-302-1762である。
- ②新規加入申込者数は10名である。明日の第2回運営委員会の審議事項としたい。
- ③事務局の郵便封筒の増刷(5000枚?)をする。(この後、封筒印刷の宛名から'事務局'の文字を削除し、'SPring-8利用者懇談会'の字体その他字配りを変えた。)

<運営>

- ①光彩No4.に報告したが、行政レベルでの共同利用制度の整備が進行している。
- ②SPring-8の一元的運営を求めて行きたい。

<行事>

- ①講習会「SPring-8における各種放射光源のパラメーターについてⅡ」が理化学研究所

において開催され(利用者懇談会、共同チーム、財団の共催)、25名の参加があった。②第8回放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムは、フォトン・ファクトリーに於いて、平成7年1月10日～13日に開催される見込みである。今年度のSPring-8利用者懇談会総会は、最終日にあたる平成7年1月13日午後1時より開催される見通しである。③「30m長直線部の利用」を中心課題に10月頃1泊2日程度のワークショップもしくはシンポジウムを開催する予定である。④学術的会合をSPring-8利用者懇談会が主催、共催、協賛及び後援する際の規定を定める事とする。その際の当利用者懇談会の対応機関は行事幹事とする。

<編集>

①「光彩」4号は7月に発送完了した。5号の発刊予定は10～11月を予定している。航空電子等技術審議会の最終答申案、ビームライン検討委員会の答申等も載せたい。6号は平成7年2月末を予定している。

<利用>

①10月頃に30m長直線部の利用についてワークショップを行いたい。②SPring-8の個々のBLの配置について共同チームとの意見交換を行いたい。③BL建設の手順について共同チームとの意見交換を行いたい。④1994年度報告書(英文)は今年度の利用計画の現状(4本の共同利用BLの詳細計画、BL計画の提案をした課題、趣旨提案されている課題)としたい。⑤当懇談会活動記録(和文)を年次毎に整理する。⑥新利用幹事として石黒英治氏(大阪市大)に依頼し会長が指名した。

<会計>

(虎谷会計幹事欠席のため坂井庶務幹事代行)①「平成5年度会計報告および平成6年度会計予算」について報告。

以上の報告をもとに第2回運営委員会報告内容を議論した。

なお幹事会終了後SPring-8現地見学を行い、引き続きSPring-8主催の懇親会に参加した。



第2回運営委員会報告

庶務幹事 坂井信彦、菅 滋正

日 時：平成6年7月30日 午前9：30～11：30

場 所：先端科学技術支援センター(西播磨)セミナー室(大)

出席者：菊田、菅、坂井、前田、難波、松井、村田、辻、塩谷、下村、坂田、

岩見、尾嶋、谷口、水木、渡辺、

[共同チーム]上坪、植木、大野、船田、[財団]高良、林田、鈴木、山田。

議事進行に先立ち議長を互選し、松井委員を選出した。

[報告事項]

<会長>：現状報告

1)利用者懇談会組織の充実について

・顧問として従来の9名の先生方に加えて、木原元央 高エネ研 放射光実験施設長と、

田井晰 姫路工業大学 理学部長に就任していただいた。

- ・利用幹事として石黒英治氏(大阪市立大・工)に加わっていただくことにした。
- ・会員数は現在858名で、構成内訳は、国公立大学関係530名(62%)、国公立研究所関係153名(18%)、企業関係175名(20%)である。
- ・研究課題サブグループ数は33で、しばらく変わっていない。

2) 利用者懇談会の平成6年度の活動目標・活動状況について

- ・原研理研共同チーム、高輝度光科学研究センターとの交流
従来通り共同チーム、センターと利用に関わる件について随時協議を行う。
共同チーム、センターからの委託事業を遂行する。
- ・SPring-8の利用体制・運営体制への利用者の立場からの行政レベル(科技庁・文部省)への提案

「特定放射光施設の共用の促進に関する法律」の成立に基づいて、特に高輝度光科学研究センターが名実共に研究所としての体制に整備される事と、出張の形態・旅費の出所などアクセスに伴う問題(建設時期と利用期間における)などについて検討する。

- ・ビームライン計画への対応

ビームライン建設へ数多くのサブグループから満を持して提案されており、また、第3世代の外国の二施設が先行している状況から全体の計画の前倒しを提案する。つまり予算的な枠組みは別として多数のサブグループに建設への予備的なゴーサインを出して準備にとりかかれる態勢に持ってゆく。この様にすればSPring-8での研究成果をより早く挙げる事ができるであろう。

共同チームからのビームライン計画の募集に対しては従来通り各サブグループから積極的に提案してもらおう。

- ・ビームライン、実験ステーション建設へのサブグループの協力

提案したビームラインの建設が認められたサブグループは、建設に協力できる体制をサブグループ内に整えた上で、建設に積極的に協力していく。

- ・サブグループ組織の強化

各サブグループは、従来の組織化の経緯により色々な陣容を持っているが、必要があればビームライン建設に一層適合するように組織の拡充・改組あるいは分離・統合を促す。既存のサブグループがカバーしていない領域のサブグループの立ち上げを促す。

- ・「放射光科学合同シンポジウム」への参加

日本放射光学会主催、4放射光施設・3利用者団体共催の放射光科学合同シンポジウムが1月10日～13日に高エネ研で開催されるので、積極的に参加する。

利用者懇談会の総会は1月13日に開かれる。

- ・講習会の開催

「SPring-8における各種放射光源のパラメーターについてII」が共同チームと共催で6月10日に開催された。

ビームラインに関する講習会や企業関係者向けの講習会の開催が検討されている。

- ・シンポジウム「超高輝度放射光利用研究の展望(仮称)」の開催

SPring-8リングの30m長直線部に設置されるアンジュレーターからの超高輝度放射

光を利用する研究についての議論を、共同チームと共催のシンポジウムで10月～12月頃に行う。将来展望の議論次第でこの利用計画の早期実現を働きかけていく。

・広報誌「光彩」の発行

既に4号が発行されており、本年度は更に5、6号が発行される予定である。

・利用者懇談会への入会の勧誘

既に会員はかなりの数になっているが、SPring-8利用研究が早期から盛況になるようにする為に会員を更に増やすように努める。特に企業関係者へ入会を働きかける。

<各幹事報告>

庶務：坂井

- ・事務局にFAX専用回線が設置された[FAX番号：078-302-1762]
- ・新加入申請者10名があったので本日の承認事項として諮りたい。

運営：塩谷

- ・共同利用制度の整備が行政レベルで進行している(光彩 No4. P12-15 参照)。科技庁の放射光推進室、文部省の学術国際局研究機関が担当機関である。
- ・SPring-8の一元的運営について当懇談会としての意見を反映させたい。財団が研究所としての役割を充分に持つことを求める。

行事：坂田

- ・“SPring-8における各種放射光源のパラメーターについてⅡ”と題する講習会が、SPring-8利用者懇談会、大型放射光施設計画推進共同チーム及び(財)高輝度光科学研究センターとの共催で、平成6年6月10日(金)に理化学研究所に於いて開催された。25名の参加があった。
- ・第8回放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムは、フォトン・ファクトリーに於いて、平成7年1月10日～13日に開催される見込みとなったが、今年度のSPring-8利用者懇談会総会は、最終日にあたる平成7年1月13日午後1時より開催される見通しである。
- ・“30m長直線部の利用”を中心課題に10月頃1泊2日程度のワークショップもしくはシンポジウムを開催する予定である。
- ・学術的会合をSPring-8利用者懇談会が主催、共催、協賛及び後援する際の規定を定める事とする。その際の当利用者懇談会の対応機関は行事幹事とする。

編集：難波

- ・「光彩」4号は7月に発送完了した。5号の発刊予定は10～11月を予定している。航空電子等技術審議会の最終答申案、ビームライン検討委員会の答申等も載せたい。6号は平成7年2月末を予定している。

利用：下村

- ・10月頃に30m長直線部の利用についてワークショップを行いたい。
- ・SPring-8のBLの配置について共同チームとの意見交換を行いたい。
- ・BL建設の手順について共同チームとの意見交換を行いたい。
- ・1994年度報告書(英文)は今年度の利用計画の現状(4本のBLの詳細計画、BL計画の提案をした課題、趣旨提案されている課題)としたい。

- ・当懇談会活動記録(和文)を年次毎に整理する。
- ・新利用幹事として石黒英治氏(大阪市大)に依頼し会長が指名した。

会計：坂井(虎谷会計幹事欠席のため代行)

- ・「平成5年度会計報告および平成6年度会計予算」について報告した。平成5年度は設立初年度のため当初予算と決算とにかなりのずれが生じた。例えば会議費は会場設営費の節約で当初予算を大幅に下まわり、通信費は大幅に上まわった。平成6年度は事務局職員の常勤化のため経費を充実させ、会議費は平成5年度決算を踏襲した。

[審議事項]

新会員の承認：

第1回運営委員会以降の新会員申込が10名あり、申請された会員登録書(コピー)を回覧のうえ、全員の入会を承認した。

平成5年度会計報告および平成6年度会計予算報告：

報告の通り承認した。ただし光彩5号に会計報告を掲載することとした。

[SPRING-8の現状報告]

<共同チーム>

大野サブリーダー：

植木サブリーダーの報告「大型放射光施設計画推進共同チームの動き94-06」が光彩No.4(p.26-27)に掲載されているが、その後の状況としては、6月30日のBL検討委員会において4本の共同利用BL[生体高分子結晶構造解析、軟X線固体分光、高エネルギー非弾性散乱、核共鳴散乱]を決定した。前者2本は平成6年度予算で、後者2本は平成7年度予算で設計建設に着手する。8月10日のBL検討委員会において、残り16計画に新規受付分を加えて検討していく事とした。なお、「イメージング」国際ワークショップを平成7年3月22-24日に神戸で開催し、平成7年1月18-20日に国際アドバイザー会議を開催する。

菅ビームライン検討委員会委員長：

経過報告

運営会議の諮問委員会として活動してきた。27件の提案があり、4段階評価により20件について英文提案書の提出を求めた。それらを5分野に分類し、外国人研究者を含むレビューアの意見を参考にしながらビームライン委員会で審議した。提案書では十分に判断できないところについては5月にヒアリングを実施した。これらを総合して今回は緊急性、先端性の高い4本の共同利用ビームラインを答申した。提案された計画の多くは共同利用ビームラインとして今後建設していくにふさわしい計画であると考えられるので基盤性をも考慮して審議し順次答申して行きたい。今回不採択の提案済みの「計画趣意書」はそのまま有効であるが、必要があればさらに修正して再提出していただいても良い。

上坪リーダー：

- ・1997年のSRI'97がSPRING-8がホストになって、姫路で開かれることになった。
- ・平成10年までに、共同利用ビームライン(BL)10本と原研、理研の専用BLが各1本建設されることになっている。そのうち、共同利用BL4本は平成9年までに完成させる予定で、設計、製作が進められている。原研の専用BLは材料研究用、理研のBL

は構造生物学研究用である。

BL建設に伴う以下の点が検討を要する。

- 1) 個別BLの設置場所(ゾーニング)
- 2) RIを含む試料のBL
- 3) できるだけ早く、多くの実験ができる方策

また、BL選定の手順について、菊田会長から10本以降のBLもなるべく早く予備採択する方法が無いかとの話があったので、up-to-dateのものにする可能性を持った予備採択の方法を検討すべきと思っている。しかし、平成11年以降は原則としてJASRIがBLの建設に責任を持つので、調整が必要である。

・共同チームとJASRIとの役割分担

建設期間中にもJASRIが加速器、BL建設の研究者、技術者を採用し、共同チームに参加させて建設に協力する。施設完成後には、原則としてJASRIが加速器の運転維持管理、性能向上とBLの建設、維持管理にあたることになる。建設にあたるメンバーを中心に加速器チームやBLチームを至急作り、次第に人員を増強して行くことが必要である。

なお、課題選定、利用者支援はJASRIの業務である。

<高輝度光科学研究センター>

林田理事：

航空・電子等技術審議会 電子技術部会における「大型放射光施設(SPring-8)の効果的な利用・運営のあり方についての中間とりまとめ(平成6年3月16日)」および「特定放射光施設の共用の促進に関する法律案資料」(科学技術庁：平成6年3月)に関する説明があった。これら報告書において

- (1) 利用者本位の考え方を原則とした施設の運営(一元化されたひとつの組織体、利用者への放射光利用の情報、技術支援の提供)、
- (2) 利用および運営を担う実施機関の必要性、
- (3) 国の施策としてSPring-8の利用運営の理念を基本方針として明示し、実施機関の法的位置付けなど、立法措置を含む制度的措置の実施の必要性、
- (4) 実施機関の業務として、研究業務(先導的研究開発、流動的研究方式の活用)、管理運営業務(安全管理、研究所管理、審議会の設置、外部機関との連携・協力)、利用課題の選定業務、共用促進業務(技術支援、人材の養成訓練、情報提供)、その他海外研究者の招聘や内外動向の調査分析および啓発活動等があること、

などが取り上げられている。特定放射光施設の共用の促進については添付図のようにまとめられる。

高良副理事長：

大学関係の研究者がSPring-8を利用することについて、文部省が全面的に協力する用意があると聞いて、大変喜ばしく思っている。大学院学生のみならず学部学生にも利用できれば、教育上、非常に意義があり、単位を与える事も考えてもらいたい。R&Dについても積極的に提案することが必要である。国内、国外の施設の利用についても、調整や支援をすることを考えてはどうだろうか。